

Vol.37

2008. 3. 4

CONTENTS



- 2 環境アセス調査 12月まで延期
- 3 1/30 沖縄防衛局、沖縄県交渉
- 4 「辺野古への基地建設を許さない」デモ
- 5 ちゃんぷるるウォーク in 御堂筋
- 6 読書室、ジュゴンサポーター
- 7 沖縄の食と生活⑫ チムシンジ

「ジュゴンは国宝である」—米国家歴史保護法によるまでもなく、私はジュゴンと琉球の心の名誉のためにも、今後も強くこのことを主張していこうと考えている。なぜなら、日本の歴史改ざん問題は古代琉球とヤマトの歴史隠ぺいを病根にしているからである。

遙か古代における日本人の心理戦争はワニ対サメの闘いであった。ワニは武力を正当化して国家や社会を支配する武力信仰の神である。一方、サメ=ジュゴンは武力に頼る臆病な邪心を清めて、国家や社会を治める絶対平和信仰の神として人々から愛された。実はこの相反するふたつの神の闘いが、琉球とヤマトの歴史的闘いであり、それが今日まで未解決のまま続けられるということである。

「ジュゴンは国宝である」

SDCC 共同代表 海勢頭 豊

このままでは琉球とヤマトは不幸な結果を招いて終わることになる。そればかりか、かつてジュゴンの平和思想が、古代の朝鮮半島や中国まで広げ伝えられた歴史の真実までが、閉ざされてしまうことになる。これは人類がめざすべき未来にとっての大損失となろう。

昨年11月、ソウルの西江大学で「韓国九条の会」が結成、出帆した。沖縄から参加した私は「憲法9条は沖縄の心」と訴え、それがジュゴンの平和思想に由来するものであると話した。そして、その思想が勾玉や巴紋とともに古代朝鮮に伝わったように考えられると話すと、韓国の友人たちが興味を示し、目を輝かせていた。

この原稿を書いている最中に、米海兵隊員が中学3年生14歳の少女に暴行を働いたとのニュースが飛び込んできた。許すことができない。基地あるが故の犯罪だ。日米両政府は沖縄県民の怒りを抑えるために、色々と善後策を考えている。しかし、事件の再発を防ぐには、ジュゴンの平和思想に学び、基地を撤去することだ。

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



2月3日大阪御堂筋で元気にちゃんぷるるウォーク

スペイン語のごあいさつ

Buenas noches
ブエナス ノチェス
おやすみなさい

Gracias
グラシアス
ありがとう





環境アセスの調査を12月まで延期させた



朝日新聞（2月16日）、沖縄タイムス（2月17日）と続けて「防衛省が環境アセスの2月調査実施を断念。キャンプシュワブ沿岸部での冬季分の調査を12月まで持ち越す」と報道しました。沖縄県交渉や県環境影響評価審査会での取り組みが、防衛省に300ページを超える資料の提出と説明を余儀なくさせたからです。この追加資料の公開と、追加資料に対する市民の意見を沖縄県が取りまとめて県審査会で論議することを約束させました。これは、方法書のやりなおしを求める運動の成果です。

昨年8月、環境アセス方法書の一方向的な公告縦覧も、環境アセスを無視した現況調査（事前調査）も、08年7月末調査の完了、14年基地完成とのスケジュールがあるからです。このスケジュールは破綻しました。今年12月に行う冬季分調査はサンゴ、ウミガメ、海草などで、ジュゴンは入っていません。防衛省はジュゴンについては「事前調査」の資料を使うことを考えているようです。ジュゴン調査の3月入札では、期間が4月から10月末となっています。これでは、沖縄県の「ジュゴンの複数年調査」の要求を無視したことになります。

今年1月、米国での沖縄ジュゴン裁判で勝利判決が出されました（別紙参照、判決文とSDCC声明）。裁判所は基地建設がジュゴンに与える影響を調査し、保護する計画を提出するように米国防総省に命じました。防衛省が行っている「事前調査」や「単年度調査」を米国連邦裁判所がどのように判断するかは明らかです。米国防総省は独自に調査計画を出すことになると思います。私たちはこの動きを活用して、環境アセスメントの期間をさらに引き伸ばしたいと思っています。今年10月にはIUCN（国際自然保護連合）第4回世界自然保護会議がスペインであります。IUCN勧告の提案を検討しています。

基地あるが故の犯罪 —少女暴行事件—

米海兵隊員による女子中学生暴行事件がまたしても起こった。

事件の経過や善後策については報道されているが、事件の本質は語られていない。婦女暴行事件など人間の尊厳を傷つける犯罪は、米軍基地がある限り、殺人の訓練を続ける限り今後も起こることは明らかだ。

許せないのは2月12日付の産経新聞「政論探求」だ。反基地勢力が氣勢を上げ、普天間飛行場の移設問題で地元の首長や議員は日和見を決め込む理由ができたとまず批判している。そして、「基地との共存共栄以外に沖縄がたどるべき道はない」から、「夜の繁華街で米兵から声をかけられ、バイクに乗ってしまう無防備さ。この基本的な「しつけ」が徹底していなかったことは無念、という以外にない」と被害者の親を批判している。産経新聞は沖縄の人々に米軍支配下の植民地生活を強いているのだ。

普天間飛行場移設の環境アセスメントが始まった。環境省は戦闘機装弾場の爆発の危険性（輸送経路や設置場所など）は環境アセスメントの対象外と言い切っている。だから、基地あるが故に起こった少女暴行事件などは環境アセスメントでの検討外だと言うだろう。しかし、人間が生活している環境（自然環境も含む）が公共事業などで悪化する場合、その要因を明らかにし、影響を予測して、回避し低減する手立てを検討することが必要だ。飛行機の騒音だけでなく、基地あるが故の影響要因、海兵隊員数や訓練、兵站の搬入経路、回数なども明らかにさせて検討する必要がある。

報告

1/30 沖縄防衛局、沖縄県交渉



海勢頭代表ら3人で、環境影響評価方法書の2月調査入りを求めている沖縄防衛局を追及しました。米国のジュゴン裁判の判決直後だけに、沖縄のマスコミ各社が取材に入りました。

交渉の冒頭に、「国際水準のアセスメントを求める国際署名（2次分）」、33カ国4322筆を提出しました。昨年5月の提出分と合わせると41カ国5754筆になります。

ジュゴン裁判で防衛省の秘密主義的な姿勢が暴露され批判が高まる中で、沖縄防衛局は沖縄県に300ページに上る追加資料を提出せざるを得なくなりました。しかし、ジュゴンの複数年調査や埋め立て土砂の採取地などは明らかにしていません。この点について沖縄防衛局と沖縄県環境影響審査室に質しました。沖縄防衛局は事前調査を環境アセスメントの期間に参入することで、調査期間が不十分だとの批判をかわすことを狙っていることが明らかになり、沖縄県も要求しているジュゴンの複数年調査が焦点になってきています。

沖縄県との交渉では、埋め立ての土砂の採取地については県内外、国内外の割合を明らかにさせて、移入種の問題については指導する。ジュゴンに影響を与える事前調査で使っている機器を使用しないように確認している。キャンプシュワブ兵舎の解体工事（2月予定）は、環境アセス期間中は行わないことを確認しているなどが明らかになりました。また、方法書の公告縦覧で意見を出した市民が今回の追加資料に意見が出せるように、書き直し文書の公表（インターネットなど）と県審査会に市民の意見を出すことを求め、確認しました。

沖縄県環境政策課は不十分さはありますが、環境影響評価法にできるだけ忠実に、防衛局に対応しています。すでに防衛局から提出された方法書が環境影響評価法の要件を満たしているとの立場を取っているために、環境影響評価法でのやり直しをもとめることまではできない矛盾を持っています。いま世論が環境政策課の取り組みを支えることが重要だと思います。

追加文書が公開されれば（沖縄防衛局のブログか沖縄県環境アセスメント資料のブログで）、意見書を出した多くの人々が追加意見を沖縄県にメールやファックスで出すことが必要だと思います。

<メール、ファックスの送付先>

沖縄県知事公室広報課

メール kouhou@pref.okinawa.lg.jp

fax 098-866-2467



2007年11月17日～18日 第2回辺野古・大浦湾調査

大浦湾は大きなアオサンゴやハマサンゴが生息する生き物の宝庫です。継続調査していきます。

「辺野古への基地建設・高江へのヘリパッド建設を許さない1.26」デモ

1月26日、辺野古への基地建設を許さない実行委員会主催の「辺野古への基地建設・高江へのヘリパッド建設を許さない1.26」デモが開催されました。

デモ出発前の集会では、辺野古現地から携帯電話で報告が寄せられ、連日の調査監視活動の様子など緊迫した報告があり、沖縄と結んでメールの交換をしました。また、首都圏の反基地団体から“バスストップから基地ストップの会”のアピールがありました。

デモコースは、有楽町の水谷橋公園を出発、銀座を通り日比谷公園までのにぎやかなコースです。当日は、晴天の中で元気にアピールでき、ヤンバルクイナに扮した男性との掛け合いが、沿道の注目を浴びていました。

このデモを主催した辺野古への基地建設を許さない実行委員会は、首都圏37市民団体のネットワークで、毎月第1月曜日に防衛省前で抗議行動を行っています。



三村昭彦

お知らせ



東京

3/15~16 ジュゴンイラスト・写真展

東恩納琢磨さん（じゅごんの里代表）を囲んで～



久しぶりの東京でのイベントのお知らせです！

今回は沖縄から東恩納琢磨さんを招いて沖縄ジュゴン訴訟・勝訴報告を伺いながらの交流会を行います。

そして辺野古、大浦湾の貴重な写真や今年の10月に開かれるIUCN会議に向け「2010年を国際ジュゴン年に！」をスローガンに皆様から集めたイラストやバナー（布にイラストやメッセージを書いてもらっています）をギャラリーで展示します。

このバナーはIUCN会議の会場バルセロナへ持参します！

まだまだ募集していますので是非皆さんの熱いメッセージを書き込みにいらして下さい。



↑ 昨年10月、京都でのイラスト展示



イベントでイラスト集め



日時 3月15日（土）13：00～20：00
 ★18：00～20：00 東恩納さんを囲んで交流会
 3月16日（日）10：00～16：00
 ★12：00～14：00 東恩納さんを囲んで交流会
 場所 なかのZERO西館 美術ギャラリー1（JR中野駅徒歩8分）
 ☆入場無料です☆

皆様お誘い合わせのうえ是非お越し下さい。
スタッフ一同お待ちしております！

中にはこんなすごいイラストも！→
韓国のフロの方が描いて下さいました



イラストパナーと替え歌で楽しくアピール!

ちゃんぷるウォークin御堂筋



2月3日、大阪で3年ぶりに「ちゃんぷるウォーク」を開催し、にぎわう御堂筋を歩きました。朝からみぞれの降る悪天候でしたが、約40名の参加者があり、「ジュゴンの海を守ろう!」「基地建設反対!」の熱い思いで盛り上がりました。



ジュゴンが替え歌でアピール☆

私にとって初のちゃんぷるウォークに参加して来ました。悪天候の中、集合場所が分かり易い様に、街頭で集めたジュゴンイラストパナーを木と木の間に飾りました。出発前に、少し集会を行いました。私は、ウォークの趣旨説明をしました。「ジュゴン裁判を追い風にして、新基地建設のことを多くの人に知って貰い世論を作り、新基地建設撤回、人やジュゴン等の生き物の命と生活を守る為にこれからも地道に活動していきましょう。」ということを行いました。蜷川事務局長から、ジュゴン裁判勝訴と、交渉の報告がありました。警備を担当している人が「時間です。」と言ってから、2人で1枚のパナーを持って歩き始めました。何故、私が先頭を歩くのか。という疑問を忘れる程、賑やかで楽しいウォークでした。

デモでお馴染みのシュプレヒコールはなく、代わりに、ジュゴンの替え歌を歌いながら歩きました。海草くわえたジュゴンちゃん〜♪ (サザエさんより) 1日1枚、3日で3枚。はい、ペンを持って、紙を持って、署名、署名! (365日のマーチ) と、聞き慣れた曲が、替え歌になっていたの、街道の人の注目を集めました。不思議そうな顔で立ち止まる通行人を見ると、とても面白かったです。

パナーと「ジュゴンの海を守れ」と書かれたボードで、両手が塞がっていて、歌詞カードを見られませんでした。聞いているだけで楽しい気分になりました。アルトサックスの伴奏や、ま〜ちゃんの三線、月桃の歌舞団の皆さんが、それぞれの音と踊りで、ウォークを盛り上げてくれました。何を訴えているのか分かり易かったのか、チラシの受取も大変良かったそ



イラストパナーを手に手にウォーク☆

うです。最近、よくジュゴンがテレビに出てきます。それでも知らない人はたくさんいます。ジュゴンの棲息地や、どういう状況にあるのか等を色んな形で知らせていければと思います。もちろん、普天間基地の移設問題についても。今回のちゃんぷるウォークもその一環として、大いに役に立ったと信じています。

瀬口久恵



お知らせ

3/14 東恩納琢磨さんの

大阪

米ジュゴン訴訟報告会



東京のジュゴンイラスト・写真展の前日、大阪で東恩納琢磨さんのジュゴン訴訟報告会を開催します。ジュゴン訴訟の意義を学び、この判決を今後の運動にどう生かしていくか、みんなで考える会にしたいと思います。SDCGからは環境アセスメントの現状報告と今後の活動方針を提起します。申し込みは不要です。皆様のご参加お待ちしております。



日時: 3月14日(金) 19:00~21:00
 場所: ドーンセンター(地下鉄・京阪天満橋下車) 大会議室1
 資料代 800円(学生400円)



読書室

『エビと日本人Ⅱ』

—暮らしのなかのグローバル化—
村井 吉敬 著



本屋の新刊コーナーで、懐かしいタイトルの本が目に入った。『エビと日本人Ⅱ』だ。続編が出たのかと思い、読んでみることにした。『エビと日本人』の出版から20年、それはエビを取り巻く環境の変化を示す内容だった。

昔、『エビと日本人』を読んだ時、自分が食べているエビが、マングローブ林を破壊して作られた池で養殖されているものだと知り、衝撃を受けたのを覚えている。東南アジアで養殖されているエビの輸出先の多くは日本であり、それはマングローブ林破壊の最大の加担者が日本だということを示していた。だが本書によると、今では米国や中国のエビ食急増で、問題のグローバル化が進んでいるらしいのだ。

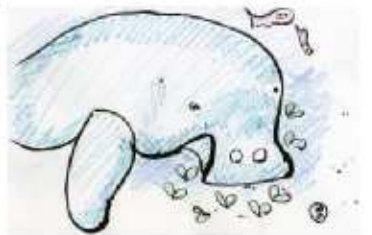
一方で東南アジア各国でも、エビ消費のグローバル化によって、養殖業で外貨を稼ごうとする動きが強く、自然の理に反する養殖業の手法が見られるようになってきているようだ。その例として、エビの眼を切断すると産卵回数が増えるということで、多くの業者が取り入れているらしい。また、水温を高く設定することでエビの成長を早める業者もいるそうだ。

しかしこのように自然の理に反する養殖業が目立つ一方で、土地の性質を把握し、生態系をうまく利用しているところも出てきているという。筆者はそれを「自然循環型エビ養殖」と呼んでいるが、そのような養殖の手法はまだまだ浸透していない。自然あつての人間であり、環境に生かされての人間だということを理解し、グローバル化という言葉に踊らされず、自らと自然を生かす暮らしが今求められているということを書の中で強く感じた。

小山 絵美

街角のジュゴンサポーター

「海の星よ」



2004年6月から2006年10月まで、月に一度山陽姫路駅前「平和街角興行」という取り組みが開催されていました。イラクの写真を展示し、歌や詩の朗読、チラシ配布などをしていたそうです。そのときに作られた歌を作詞者の野瀬さんから、投稿していただきました。

「海の星よ」 作詞：野瀬吉夫 作曲：中村雅子

- | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. まだ まに合うのなら
まだ まに合うのなら
愛する人よ 唄ってほしい
はるか かなた
宇宙に浮かぶ
青く輝く
海の星よ</p> | <p>2. まだ まに合うのなら
まだ まに合うのなら
恋しい人よ 語ってほしい
この空も この海も この大地も
誰のものでもない
軍事大国の わがまま気まま
やりたい放題 できるものではない</p> | <p>3. まだ まに合うのなら
まだ まに合うのなら
いとしい人よ 伝えてほしい
ジュゴンが泳ぐ
サンゴの海は
海の畑さ
魚が湧いてくる</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|

4. まだ まに合うのなら
まだ まに合うのなら
親しい人よ 話してほしい
サンゴの海に
基地はいらない
戦火の犠牲者が
増えるだけさ

7番までのこの歌、全部をご紹介できませんでした。楽譜も載せることができなくて残念です。7番の最後はこんな歌詞で結ばれます。

♪この星は未来に生まれる子どもたちからの預かりものさ
この星は未来に生きるいのちからの預かりものさ♪
ジュゴンが悠々と泳ぐ平和な沖縄の海を、子どもたちに
残すべくがんばりましょう。



沖縄の食と生活⑫ チムシンジ(レバー汁)



沖縄の料理、特に庶民が食する料理は薬膳料理といっても過言ではありません。かつては貧しく医者にかかることも無かった庶民にとっては、医食同源ということで、食事そのものに配慮していたのかもしれませんが。いまでも「ウリヤ、クスイムンドー」（それはくすりになるものですよ）と言う表現がされたりしますが、薬と聞いて嫌な顔をして食べる人はほとんどいません。逆に疲れが取れるとか、滋養強壯の意味で受け止められています。

病院勤務の長かった私ですが、病院の食事大幅に改善されたとはいうものの家庭に比べ塩分が控えられているため、患者さんは少なからず不満があったようです。そして患者の家族によって「病院の食事では栄養がつかない」ということで、持ち込まれる料理の一つがチムシンジ（レバー入り根菜のお汁）でした。

食材を時間をかけて煮込んだ汁物のことをシンジムン（煎じ物）といっていますが、かつてはシンジムンの主材料が肉や魚と同じように、市場で手軽に購入する事が出来ました。イラブー（海蛇の燻製）ターユー（鰯）などもありましたが、今日ではイラブーは高級化と手間隙がかかること、ターユーはほとんど見なくなり、家庭で料理される事はなくなりました。しかし、「チムシンジ」に関しては今でも、ちょっと体力が落ちたとか、家庭で療養する場合の食事として、何処の家庭でもつくる料理の一つです。レバーと人参、ジャガイモを時間をかけて煮込んだもので、レバー特有の臭みや食感も緩和されて、人参やジャガイモの風味が味噌仕立てによくマッチしています。

チムシンジに関して笑い話があります。友人が大病をして療養している折、年老いた母親がいつもチムシンジを作ってくれていたそうです。貧血があり、毎日チムシンジを飲んでいながら一向によくならないとの相談がありましたが、よくよく聞いてみると余りの量の多さに、具は残して汁だけ摂っていたとのことでした。確かに消化器の機能が落ちたり、食欲が無いときにはいいのかもしれませんが、しっかり食事が摂れるなら鉄分やたんぱく質の多いレバーそのものをとらなければ意味が無い、シンジ汁だけではなく、他のものも含めてしっかり食事をとることを勧めました。チムシンジのレバーは出しガラで栄養などないと思っていた彼女は、その後はしっかり食事を摂り、元気に職場復帰を果たしました。伝統食離れが問われている昨今、薬膳料理の一つとして、「チムシンジ」はズーッと家庭の中で伝わるだろうと思われます。冬の寒い折、風邪の後の咳が続いたり、食欲が無いときなど温かい汁物「チムシンジ」をぜひ試してみてください。

宮城都志子

新橋BOX ~ジュゴンがいる居酒屋~

今回紹介するお店は、なんと！！ 店内に親子のジュゴンがいる居酒屋です。東京のJR新橋駅の汐留口から徒歩1分のとても便利な場所にあります。

店内に一步入ると、天井から親子のジュゴンが下がっており、感動しましたが、なぜジュゴンを飾っているのか聞きそびれました。このお店は、とても気風のいい名物ママのやっている飲み屋で、ダイバー御用達だそうで、専門の図書などが沢山置いてあり、ダイバーが多く集まっておりました。早速、SDCCのパンフレットを置かせていただきました。

お店のママは、「eco CAP・エコキャップ運動」で、=世界の子どもに「ワクチン」を届けよう=ということで、ペットボトルキャップの収集活動もされております。興味のない人から見れば、ただのゴミにしか見えないペットボトルのキャップを集めています。800個(約2kg)でポリオワクチン1人分になります。沢山集めれば、困った人の役に立ちます。ぜひ皆さん、捨てないで沢山集めて、新橋BOXに届けがてら、是非ジュゴンに会いに飲みに行ってみてください。

矢敷克子



第8回 SDCC 総会案内

IUCN勧告とジュゴン訴訟で 新基地建設でなくジュゴン保護区を

日時 4月13日(日)午後6時開場 6時15分～8時15分
 ところ ドーンセンター セミナー室 (大阪地下鉄・京阪天満橋駅)



吉川秀樹
市民アクセスなど
ジュゴン裁判通訳



花輪伸一
WWF ジャパン
自然保護室

今年10月開催のIUCN第4回世界自然保護会議に向けて、「IUCNってなあに?」。1月に勝利判決が出た「ジュゴン裁判の意味は?」などのお話を踏まえてみんなでディスカッションします。海勢頭代表の歌も飛び出します。

☆参加費無料 SDCC 会員以外の方もどなたもご参加いただけます



「希望の歌 沖縄発一平和への潮流」

日時 3月9日(日) 開演14時
 場所 読谷文化センター (沖縄県読谷村役場近く)
 料金 2000円



海勢頭豊
4.28コンサート

日時 4月28日(月) 開演19時
 場所 パレット市民劇場
(沖縄県庁近くパレットくもじ9階)
 料金 1500円

SDCC オリジナルグッズ販売のお知らせ

ジュゴンイラスト缶バッジ



昨秋公募したイラストで缶バッジを作りました (aはイラストレーター南綾子さんの作品です)。2010 Year of the Dugong の文字が入っています。かばんや帽子に付けて、ジュゴン保護をアピールして下さい!

お名前、ご住所、お電話番号、a～dの記号、数をご記入の上、送料との合計を切手で同封して、SDCC 関西事務所まで郵送ください。1個200円+送料です。

*送料 1～2個...80円 3～6個...90円
 7個以上...140円

1個200円 (+送料) です。
 関西事務所に申し込んでね!



☆ ボランティアスタッフ 募集 ☆

SDCCでは常時ボランティアスタッフを募集しています。ネットでのよびかけ、街頭での宣伝、グッズやイラスト作成、事務所での整理や発送作業など、お手伝いいただける方はぜひご連絡をお願いします!

Editor's Note

1月アメリカでジュゴン裁判の勝利判決が出ました! 日本でも「ジュゴンを守るための環境アクセス」を実現させましょう。(Y)

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.37 2008年3月4日発行
 ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
 Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2 1
 第1千代田ビル301 なかま共同事務所内
 ○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
 (関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
 TEL/FAX 06-6353-0514

